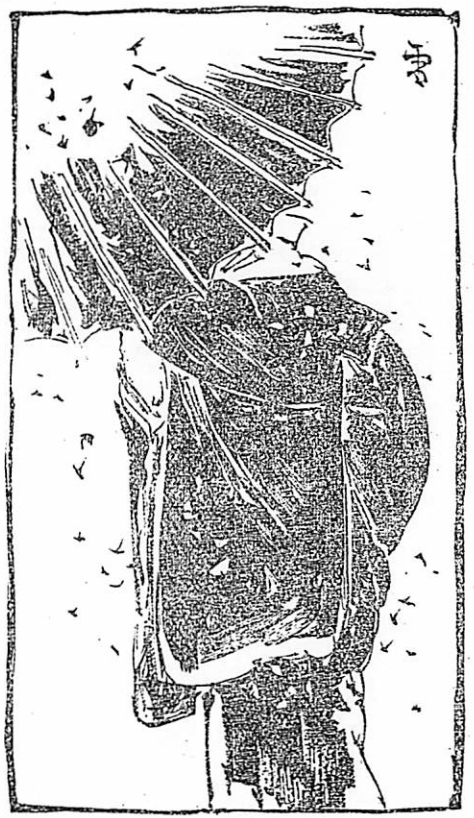
[redacted]

何がそんなに可哀想なのだらう、僕には解らないよ。
朝から晩迄引きりなしに、種々な人が訪ねて來て、いそかしくて自由に遊べないからか知ら。だつても、先刻脊の高い、ハイカラな新聞屋の小文さんが來たとき、姉さんは笑つて話して居たでないか。
僕あちやんと見てたんだもの、よく知つてらあ。嬉れしいから、笑つたんだ、然うだ、姉さんは屹度うれしいんだよ。
僕だつて、僕だつて、嬉れしいや。
名譽の戰死者！
吉岡少尉!!
誰だつて知つてるさ、今度遼陽で、すばらしい働きをして、戰死しちやつたんだもの。
あれは僕の兄さんさ。
なに、うそなもんか、

○溝　萩
麹町區土手三番町
岡田刈萱



『お前は何を云うのです。姉さんを可哀想と思はないかい、これ武男！、解らないつて餘りだよ』。
と僕は伯母さんから叱られた。
それて、伯母さんは、昨日から泣いてばつかり。
餘程の泣き虫だよ。
『姉さんを可哀想だと思はないか』つて、何故だらう、
ほんとだよ。
僕の姉さんは、そのお嫁なの。
まだね、お客樣をしておひろめはしないのだけれど、兄さんが戰地へ出發つ前に、ちやんと御祝言は濟ませちやつたの。

僕は、これから、大道を大威張りに威張つて歩くんだよ、うれしいなあ。

此次の戰爭ごつこでは、僕が吉岡少尉さ。弱蟲の泣き蟲の大野なんか、露西亞の大將で、恰度好いや。今に捕虜にしてやうんだ。

見てやがれ！